

国語科学習指導案（略案）

平成 25 年 2 月 1 日 金曜日 2 校時
 中 学 部 B グ ル ー プ
 男子 3 人 女子 2 人 計 5 人
 場 所 中 学 部 2 年 教 室
 指導者 内倉 広 大 (CT) 前 潟 久 美 子 (ST)

1 題材 「文章を読んで、問題に答えよう」(教材名：ブレーメンの町のお話)

2 本時の学習(9/15)

(1) 全体目標

- ア 黙読や音読を通して、書かれている文や文章のおおまかな内容を理解することができる。
- イ 物語を読み、「だれ」や「どこ」の設問に答えることができる。

(2) 個別の指導計画と個人目標

生徒	個別の指導計画の目標	個人目標
A (1年, 男)	文の読み書きをし、単語を用いたり、絵を並べ替えたりしておおまかに話の内容を答えることができる。	ア 教師と一緒に音読をし、登場人物の確認をすることができる。 イ 文と設問を読み比べ、括弧に当てはまる単語を文中から抜き出すことができる。
B (1年, 女)	読み書きした文や文章の内容をおおまかに理解し、助詞に気を付けて説明することができる。	ア 黙読や音読をすることで、どのような登場人物が現れたかなど物語のおおまかなあらすじを理解することができる。 イ 助詞の使い方に気を付けながら、「だれ」や「どこ」の設問に答えたり、書き表したりすることができる。
C (2年, 男)	主語と述語を使い、読み書きした文や文章の内容を説明することができる。	ア 音読をすることで、物語のあらすじを理解し、登場人物やその動きを説明することができる。 イ 主語と述語を正しく使い、「だれ」や「どこ」の設問に答えたり、書き表したりすることができる。
D (3年, 男)	読み書きした文や文章の内容をおおまかに理解し、簡単な質問に答えることができる。	ア 黙読や音読をすることで、物語のあらすじを理解し、登場人物を答えることができる。 イ シンボルや「だれ」や「どこ」の単語を手掛かりに、設問を理解し、括弧に適する言葉を文中から抜き出すことができる。
E (3年, 女)	読み書きした文や文章の内容をおおまかに理解し、文で説明することができる。	ア 黙読をすることで、物語のあらすじを理解し、登場人物の動きを簡単に説明することができる。 イ 「だれ」や「どこ」の設問を読み、文中から適切な文を抜き出して答えたり、書き表したりすることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要

生徒たちは、前次で「おむすびころりん」を使って物語を読み、簡単な設問に答える学習を行っている。本時は、前次よりも長い文や文章を読み、内容を理解したり設問に答えたりする学習活動を中心に設定している。

教材・教具とのかかわりについて

プレゼンテーションソフトを使って物語文をスクリーンに映すことで、文中の着目する部分を明確にするなど、情報の精選をする。また、物語文はライト教材を用い、文頭の書き出しを下げたり文を簡略化したりして、読み解きやすいようにする。

友達・教師とのかかわりについて

設問に対する発表場面では、互いの考えを確認し合うことができるように、それぞれホワイトボードに自分の考えを書き表すようにする。さらに、CTは全体の場で生徒の解答の良い点を中心に指導、評価することで、他の生徒の学びにもつながるようにする。

自分とのかかわりについて

自分の考えを確かめることができるように、設問の答えが書かれている箇所を線で囲ったり、書き表した答えを読み返したりする活動を個に応じて設定する。

授業環境の工夫

机は、互いの顔が見えるように半円に配置する。また、授業に見通しをもつことができるように、漢字の小テスト、音読、設問の読解、解答の確認をするというこれまでと同じ授業の流れで学習活動を展開する。

(4) 実際

過 程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (15分)	1 始めの挨拶をする。 2 漢字の小テストをする。 3 前時までの学習の振り返りをする。 (1) 黙読や音読をする。 (2) 登場人物の確認をする。 (3) 前時までのあらすじを確認する。 4 本時のめあてについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「だれ」や「どこ」の問題に答えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> STは、教材・教具の準備を生徒が行うことができるように分担の指示を出すなどの支援をする。 挨拶の際には、姿勢を正し、教師も一緒に挨拶をすることで、生徒が学習へ意欲的に向かうことができるようにする。 教材本の読み込みでは、初めに黙読を行うことで集中して読み込むことができるようにする。また、音読をすることで、正しい言葉の言い回しを体験したり、文中に使われる言葉の面白さを味わうことができるようにする。 前時までのあらすじを想起しやすいように、プリントを使ったり、登場人物の確認で、イラストを用いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・スクリーン ・テレビ ・パソコン ・ホワイトボード(大) ・プリント
展開 (30分)	5 設問を読み、答えを考える。 (1) 設問を読み、答えをプリントに文で書き表す。 (2) プリントに書き表した文をホワイトボード(小)に書く。 (3) 全員で答えの確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文はスクリーンに、設問はテレビに映し出す。 ・設問の意味をより理解することができるように、「だれ」、「どこ」の設問にシンボルを添える。 ・生徒の実態に応じて、単語や文で書き表すことができるように、解答欄の枠に配慮する。 ・STは主にAの支援を行い、文章と設問とを見比べることができるようにページをめくったり、線で囲みをしたりする。 ・CTは、生徒自身が考えの根拠を説明できるように、文中から抜き出した箇所を線で引く、囲みをする指導を行う。 ・正しく文を作ることができるか確認できるように、自分が書き表した文を読み返す指導を行う。特に、C、D、Eは脱字が多いので、確認しやすいように教師が文を指でなぞって一緒に確認する。 ・全員で答えを確認する場面で、CTは、生徒の答えの良さを押さえることで、生徒同士が互いの良さを認め合うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材本「プレーメンの町のお話」 ・ホワイトボード(小) ・ホワイトボードペン
終末 (5分)	6 学習の振り返りをする。 7 次時の学習について知る。 8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を振り返り、「だれ」、「どこ」に単語カードを分類することで、学習したことを確認することができるようにする。 ・全員で姿勢良く挨拶をすることで、学習の終わりを意識することができるようにする。 ・CTは、生徒が教材・教具の片付けに取り組むことができるように分担の指示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語カード

(5) 評価

- ア 黙読や音読を通して、書かれている文章のおおまか内容を理解することができたか。
 イ 物語を読み、「だれ」や「どこ」の設問に答えることができたか。